

## IV-8

## 将来の自立につなげるキャリア教育

## (1) キャリア教育と特別支援教育

特別支援教育に求められる「児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組の支援」は、キャリア教育の視点に通じるものです。児童生徒が、自分らしい生き方を見つけ、自分らしい生き方ができるように支援することがキャリア教育の本質であり、「共生社会の実現」に向けて、障がいのある児童生徒のキャリア教育の推進は不可欠です。

障がいのある児童生徒が、社会の一員として自分の果たす役割などについて考え、その時々状況に応じて、自分の役割を果たせるようにしていくことが大切です。

## (2) キャリア教育の充実

児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けていくことができるよう、見通しをもったり、振り返ったりする機会を設けるなど、個別最適な学びを充実させながら、自身の変容や成長を自己評価する学習活動などを充実していくことが大切です。

## (3) 各段階におけるキャリア教育のポイント

小・中学校は、キャリア発達の土台づくりとなる重要な時期です。指導に当たっては、次のことに留意しましょう。

## ① 小学校段階

- ・「できる」体験を積み重ね、自信をもてるようにすること。
- ・主体的にめいっぱい活動しきる機会を設定すること。
- ・好きなことや興味を示したこと（もの）を出発点とし、大切にすること。また、そのきっかけづくりを大切にすること。
- ・好きなこと（もの）だけではなく、様々な体験・経験を広げる機会やチャレンジする機会を設定すること。
- ・支援する側が児童の取り組む諸活動について、職業的自立の土台として捉え直すこと。



## ② 中学校段階

- ・多様な体験ができるようにし、体験をとおして将来へのよいイメージをもてるようにすること。また、その際は生徒の「やりたいこと」のみではなく、他者や環境との関係で折り合いをつけることや、本人にとっての諸活動に対しての「意味付け」をすること。
- ・本人なりの振り返りや目標設定への丁寧な個別対応をすること。
- ・各教科等を合わせた指導である作業学習では、生活単元学習や総合的な学習の時間と関連付けながら「働くことの喜びを味わう」ことや、将来のことをイメージできるような「あこがれる」出会いを設定すること。



#### (4) キャリア発達を促す振り返りの必要性

社会の中で役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程であるキャリア発達においては、「豊かな体験」が必要となります。特別支援教育においては、従前から「豊かな体験」を大切にしてきましたが、単に体験的な活動のみを重視するのではなく、その「振り返り」によって、確かな「経験」につなげることが大切です。

振り返りによって、児童生徒が体験したことの意味や価値に気付き、過去に起こったことを捉え直したり、将来を展望するための視野を広げたりすることにつながります。

振り返りが、今の学びと将来をつなぐ「なりたい姿・ありたい姿」につながっていきます。



#### (5) キャリア・パスポートについて

キャリア発達を促すために「振り返り」は重要です。キャリア教育に関わる諸活動について、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりしながら、自分の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオとして、令和2年度から全ての小学校・中学校・高等学校等でキャリア・パスポートの活用が始まっています。

##### ア キャリア・パスポートの作成に当たって

児童生徒が、自らの学習状況や日常生活等の振り返りをしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにします。



児童生徒によっては、キャリア・パスポートの項目の内容を理解することや、記入する内容を考え出すことが難しい場合があります。

このような場合には、教員が対話的に関わるのが大切であり、理解しやすい形で示した選択肢を児童生徒が選ぶようにするなどの支援が考えられます。

##### イ 個別の教育支援計画とキャリア・パスポート

個別の教育支援計画は、児童生徒に対する支援を保護者等と共有する計画としての役割に重点が置かれています。

一方、キャリア・パスポートは、児童生徒本人の意思や思いについて重点を置くとともに、児童生徒が振り返りの際の教材として活用することにつながることが重要になります。

文部科学省のWebページでは、キャリア・パスポートの例示資料と指導上の留意事項が掲載されていますので、参考にしてください。

[キャリア・パスポートの例示資料集等](#)（文部科学省 Web ページ）

